

スポーツボランティア・フリートークフェスタ その4  
2004年2月22日(日) 仙台市市民活動サポートセンター  
15時5分 ~ 16時45分

## ワークショップ(速報)「現状の課題と今後に向けて」

### 笹かまチーム

- ・登録者数は多くとも実際に活動する人数が集まらない  
競技場とマリノスという関係ではなく、個人と競技場との関係が必要
- ・スタジアムボランティアのモチベーションをどう保つか。  
スタジアムボランティアには、お楽しみ的なものが必要。自主企画があると良い
- ・スタジアムボランティアは範囲が広すぎる  
実際にやってみるとそうでもない。横浜もグランディも。  
仙台スタジアムと宮城スタジアムの違いは、大型映像装置使用の可不可。

### 桜チーム

- ・スタジアムとチームのボランティアの性格が違うこと  
今ベガルタのボランティアをしている人にどうやってスタジアムボランティアの認識を理解させるか?  
何を、どのように行うのか - 業務内容のガイドラインをしっかりと伝えてイメージを共有する。そして支えることの意義や、それによる楽しみまで伝えられれば。

### YYS(横国と山形と仙台的意)チーム

- ・モチベーション維持の問題。研修不足の人員に関してどうするか。  
活動のときだけでなく、活動前後に気持ちを吸い上げたり共通意識を持ったりすることが大事。
- ・仙台スタジアムの開放機会はもっと多くてはどうか。  
大人にもピッチ開放!
- ・スタジアムとは行かなくとも、国際大会用のボランティアがあってもいいのでは?  
細かく分けて枠を増やすより、並存というあり方のほうが良い。
- ・行政やイベント会社との垣根  
ボランティアがそれを取り払えれば。ただし施設側と一定の距離をもつことも必要。  
ネットワークの更なる充実を目指す。

### おひなさまチーム

- ・新潟では組織作りの最中。
- ・山形の活動人員を増やすには。ボランティアの楽しみをもっと伝えるべきでは。

メディアで紹介してもらいたい。

- ・ 仙台は活動範囲が広く、業務の把握に時間がかかる  
マニュアルの充実
- ・ ドタキャン対策  
意識の問題...具体的な対策を練る必要がある

けまりチーム

- ・ ベガルタに対する知識は浸透しているが、ボランティアに対する知識はPRされているか。  
メディアとの連携、マッチデープログラムでのボランティアコーナーなど
- ・ チームからのボランティアに対する意識  
これまで、チームはボランティアに依存する部分が多すぎた。  
社長交代とフロント改革。これで変わる可能性大。
- ・ スタジアムボランティアの必要性  
天皇杯のときはVVNがノータッチになる。ノウハウの共有のためにスタジアムボランティアは必要。ラグビーやアメフトなど、他の競技にも対応できるのが理想。

まとめ

スポーツボランティアには、スタジアムボラ、Jリーグのチームボラ、そしてより幅広い各種スポーツボラなど多様性がみられる。楽しいボランティア活動のコンセプトを基本として、画一的ではなくネットワーク・コミュニケーションを大切にして、成長していきたい。

大会宣言

- 1 私たちはスポーツを通じてまちが楽しく元気になる様活動します
- 2 スポーツを通じて、ボランティアの幅広いネットワークを作る様活動します
- 3 仙台スタジアムにボランティア制度の創設を提案し実現に向けて活動します

